

でもよいと考える高齢者が増えていることがうかがえる(図1-2-1-8)。

(3) 一人暮らし高齢者は増加傾向にあるも一人で過ごすことには不安を感じている

65歳以上の一人暮らし高齢者の増加は男女ともに顕著であり、昭和55(1980)年には男性約19万人、女性約69万人、高齢者人口に占める割合は男性4.3%、女性11.2%であったが、平成17(2005)年には男性約105万人、女性約281万人、

高齢者人口に占める割合は男性9.7%、女性19.0%と、女性における比率は極めて高い。今後も一人暮らし高齢者は増加を続け、特に男性で一人暮らし高齢者の割合が大きく伸びることが見込まれている(図1-2-1-9)。

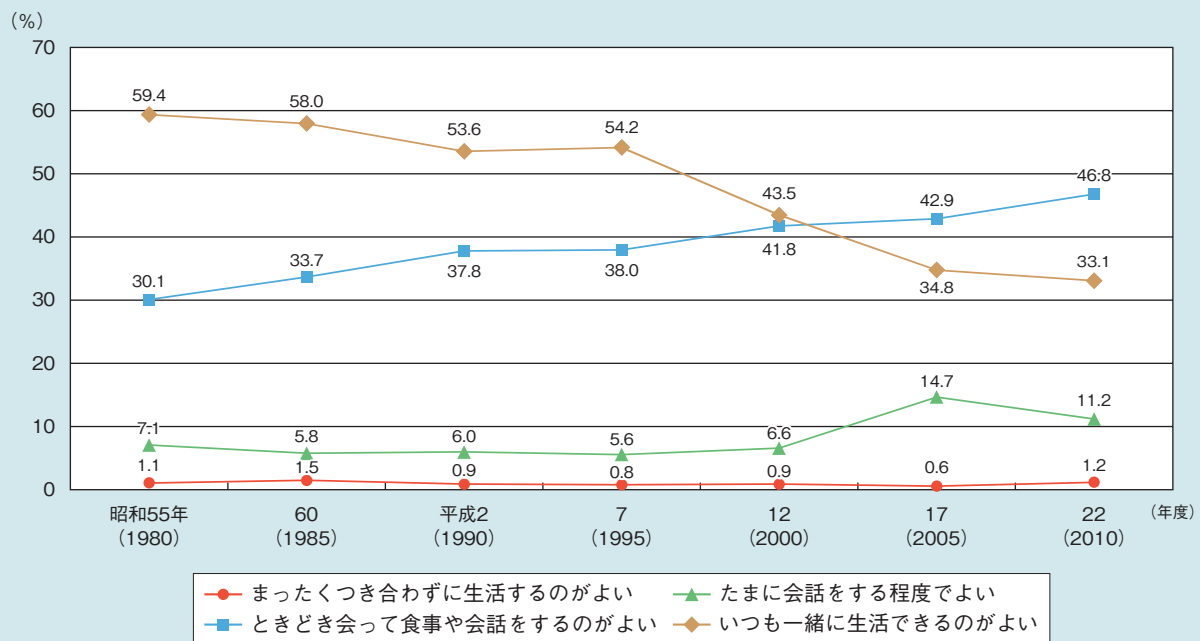
また、60歳以上の高齢者で一人暮らしの人は、他の世帯と比べ、健康や生活費などの経済的な心配など「心配ごとや悩みごとがある」人が多い。具体的な心配ごとや悩みごととしては、「自分の健康」や「生活費などの経済的なこと」、また「病気のと

表1-2-1-7 別居している子との接触頻度

	ほとんど毎日	週に1回以上	月に1~2回	年に数回	ほとんどない	週1回以上	月1~2回以下
日本	20.6	31.3	29.9	15.5	2.6	51.9	48.1
(うち男)	18.0	29.0	32.8	15.7	4.4	47.0	53.0
(うち女)	22.8	33.3	27.5	15.3	1.1	56.1	43.9
韓国	17.0	44.8	26.3	10.0	1.9	61.8	38.2
アメリカ	46.3	35.1	11.2	4.6	2.8	81.4	18.6
ドイツ	23.7	38.9	19.4	16.1	2.0	62.6	37.5
スウェーデン	31.1	49.1	13.8	5.3	0.7	80.2	19.8

資料：内閣府「高齢者の生活と意識に関する国際比較調査」(平成22年)
 (注1) 調査対象は、60歳以上の男女
 (注2) 子との接触とは、実際に会うことその他、電話等による接触を含む。

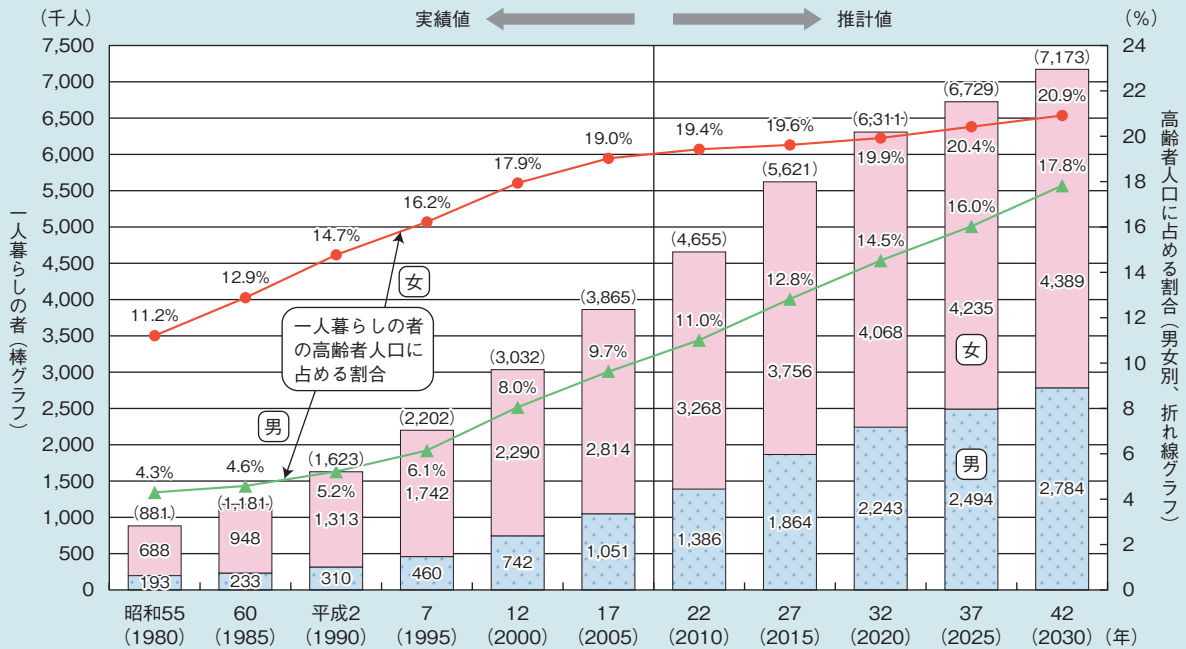
図1-2-1-8 高齢者の子どもや孫との付き合い方



資料：内閣府「高齢者の生活と意識に関する国際比較調査」
 (注1) 調査対象は、60歳以上の男女
 (注2) 平成12年度及び17年度調査ならびに22年度調査には、「わからない」(12年度：7.0%、17年度：6.9%、22年度：7.6%)がある。

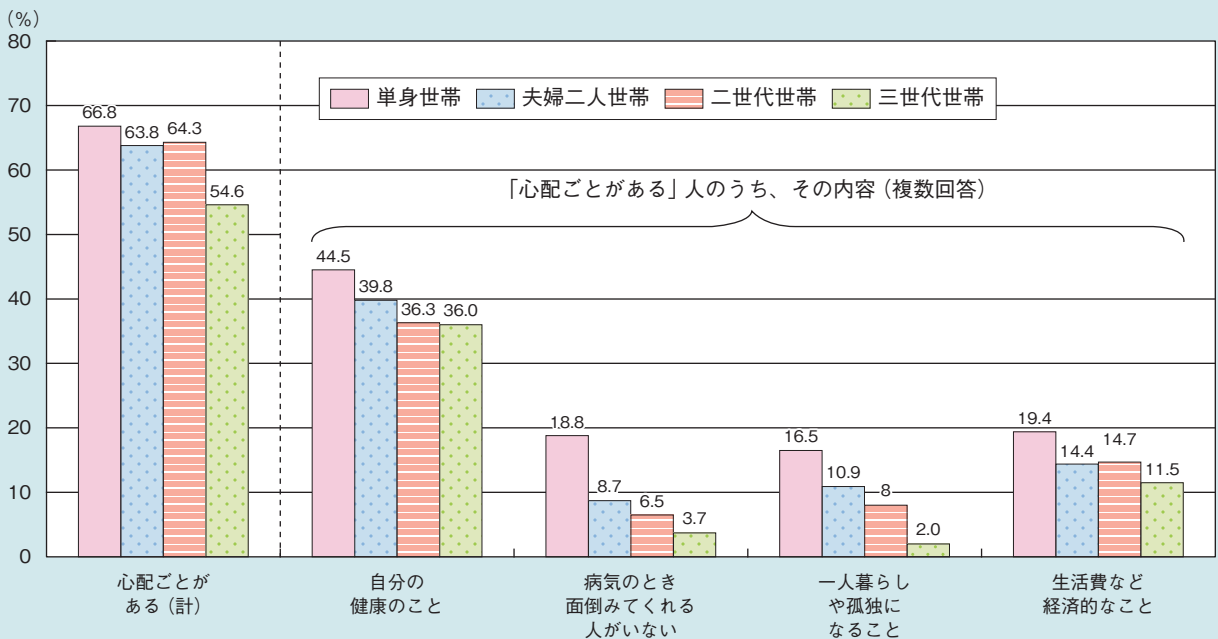
きに面倒を見てくれる人がいない」や「一人暮らしや孤独になること」である(図1-2-1-10)。

図1-2-1-9 一人暮らし高齢者の動向



資料：平成17年までは総務省「国勢調査」、平成22年以降は国立社会保障・人口問題研究所「日本の世帯数の将来推計(平成20(2008)年3月推計)」、「日本の将来推計人口(平成18(2006)年12月推計)」
 (注1)「一人暮らし」とは、上記の調査・推計における「単独世帯」のことを指す。
 (注2)棒グラフ上の()内は65歳以上の一人暮らし高齢者の男女計
 (注3)四捨五入のため合計は必ずしも一致しない。

図1-2-1-10 同居形態別にみた心配ごとや悩みごと



資料：内閣府「高齢者の地域社会への参加に関する意識調査」(平成20年)
 (注)調査対象は、全国60歳以上の男女